

【第二中学校の教育目標】 → 変更する

中野区教育ビジョン、中野区教育委員会の教育目標の精神の基づき、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力をはぐくむとともに、規範意識の高い、心身ともに健やかな生徒の育成を目指す。

〔自律、尊重、創造、挑戦〕

- ◇自ら考え、判断し、行動する生徒の育成
- ◇違いを理解し、他者を尊重する生徒の育成
- ◇豊かな発想をもち、創意工夫する生徒の育成
- ◇変革やチャレンジをし続ける生徒の育成

「未来を切り拓く（創り出す）子供たち」に、必要な力は何か？
その力を培うために、必要な体験・経験は何か？

〔校長としての所信〕

将来の変化を予測することが困難な時代に、自らの人生を切り拓き、生涯を生き抜く力を子供たちに培っていくことが求められている。〔社会の入り口としての学校〕

◆生徒に伝えたい“5つの勇気” ➡ 健全な心の成長を図るために！

- ◇「真実を隠す努力より、真実を語る勇気」
- ◇「避ける努力より、ぶつかる勇気」
- ◇「強き者に好かれる努力より、弱き者に手を差し伸べる勇気」
- ◇「言い訳を探す努力より、素直に謝る勇気」
- ◇「耐える努力より、吐き出す勇気」

〔目指す学校像〕信頼と誇りに基づいた、活力と落ち着きのある学校

- ◇教師、生徒、保護者、地域が誇れる学校
- ◇区民に信頼される学校
- ◇区民と共にある学校

〔教職員像〕授業力・指導力、情熱・使命感、実行力のある教員

専門性が高く、迅速に行動する職員

- ◇生徒の笑顔を第一に考える
 - 子供が充実感、達成感を得られるよう最大の努力をする。
 - ※その行動は、生徒の気持ちになって考えただろうか
- ◇いつでも“笑顔”を忘れない
 - 私たちの“笑顔”が、生徒たちの“笑顔”をつくる。
 - ※その行動は、生徒の最高の笑顔を引き出せるだろうか
- ◇感謝の気持ちを常にもつ
 - 感謝の心が自分を謙虚にする。
 - ※その行動は、周囲の人に感謝の気持ちが伝わるだろうか
- ◇常に改善・向上を目指す
 - 現状に満足せず「どうすればできるか」を考え、実際に行動する。
 - ※その行動は、可能性に挑戦し、
「どうすればできるか」と前向きに考えただろうか？
- ◇法令を順守し、正直で誠実な行動をする
 - 日々の行動が学校の信頼を高めることを自覚する。
 - ※その行動は、法律や道徳に違反していないだろうか？
生徒たちに見せられるだろうか？

【経営の重点】・・・令和3年度の重点

「**二中を世界に誇ることができる学校にしよう!**」を合い言葉に、生徒とともに学校生活の見直しを図る。また、これからの**未来を切り拓く力**を生徒に培って行くことを意識し、授業等の改善に取り組む。

◆GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール対応〔授業改善〕

「多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に**個別最適化され**、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する」ために・・・

- 生徒一人一人がタブレット端末を“文房具のように使用する”ことを前提とした授業の構築する。(インターネットで調べるなどではない)
- 意見等の共有や**協働学習**を行う道具としてタブレット端末を活用する。
- 生徒が、自分で学ぶことができるコンテンツを使用する(学びを止めないための準備)

◆学習評価の改善〔「妥当性」、「信頼性」のある評価〕

- 4観点から3観点到整理された。

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」

→「**知識・技能**」、「**思考・判断・表現**」、「**主体的に学習に取り組む態度**」

これらに対し、適正な評価材料を収集するところから、見直し構築する。

特に「**主体的に学習に取り組む態度**」の評価材料は、目的に鑑み精選する。(宿題の提出状況や忘れ物の数ではない。また、指導をしていないのでは評価することもできない。) ※評定に総括する際は必ず「1:1:1」となる。

◆学校生活の改善〔**生徒会を中心とした校則等の見直し**〕

- 生徒自らが、学校生活を見直し、改善する意欲を大切に。不要なルール等は廃止、改善すべきものは**きちんとした手続き**をとって、変更していく。
本当に、「このルールは必要か?」「このルールは合理的か?」
勝手な解釈や勝手にルール違反しないことを大切にしたい。

◆特別支援教室の運営

- 週1回程度の巡回指導が開始される。(中野中学校の教員)
それ以外の4日間において、特別支援教室にどのような機能を持たせるか。
 - ・保健室登校等、不登校対応 →**オンライン・フリースクールもその1つ**
 - ・発達障害の生徒のケア →**心の教室相談員との連携**
 - ・心の弱い生徒のケア

◆不登校生徒対応

- 国の対応スタンスが切り替わった〔**教育機会均等法**〕ことに鑑み、N中等の外部機関に登校する生徒への支援及び外部機関との連携を充実する。

◆小中連携教育

- 学力向上をテーマとし、算数・数学、外国語は具体的な連携の上、取り組む。さらに、様々な教科で、**心理学・脳科学を効果的に活用し**、学力の伸長を実現する。

◆コミュニティ・スクール〔学校運営協議会及び地域学校協働本部の設置〕への準備

- 社会に開かれた教育課程の実現のためにも必要

二中は、「**世界へ羽ばたく人材の育成**」をスローガンに、PTA、学校評議員とともに、地域の核として「世界に視野を向け、地域に貢献することができる人材」を育成する。『地域や学校を誇りとする生徒』、『多様な価値を理解する生徒』の育成に重点を置き、教育活動を行うとともに、今後の中野二中の10年の方向性を定めていく。

<昨年度からの引き続きの課題>

◆教職員の働き方改革の推進（中野区教育委員会）

- ①庶務事務システムの導入によるサービス管理の効率化
- ②指導用タブレット端末配備による授業づくりの効率化
- ③教育系ネットワークにおける学校間共有フォルダの設定
- ④デジタル教科書の導入
- ⑤校務支援システムのカスタマイズ
- ⑥勤務時間外電話の転送体制の構築
- ⑦調査や依頼等の精査及び削減
- ⑧マークシート対応ソフトの導入
- ⑨区主催研修会等の内容の精選及び回数の縮減

◆施設整備計画の準備〔令和4（2022）年基本構想／計画〕 →残念ながら延期

◆学習指導要領全面实施と評価・評定に対する信頼度の向上

- 社会に開かれた教育課程の実現
- カリキュラムマネジメント
- 主体的、対話的な深い学びの実現〔授業改善〕
- 基礎学力の定着と学力向上と指導と評価の一体化〔評価の明確化〕
 - ・基礎的・基本的な知識・技能の習得
 - ・思考力、判断力、表現力等の育成
 - ・学びに向かう人間性〔自ら学び自ら考える力及び学ぶ意欲の醸成〕
- 総合的な学習の時間の改善
 - ・総合的な学習の時間の新カリキュラムの策定
 - ・PBL（プロジェクトベースドラーニング）スタイル〔問題解決型学習〕
 - ・生徒一人一人が自分自身で納得解を得るまで研究しているか

◆心の教育・健全育成

- 生徒主体の活動
- いじめや不登校などの問題の未然防止、早期解決
- 共生社会の実現（I組との交流）

◆地域・保護者との連携

- 社会に開かれた教育課程
- 開かれた学校づくり
- 小中連携

◆特別な支援を必要とする生徒の指導

- 巡回相談等関係諸機関との連携

◆特別支援教育の充実〔I組の教育課程の充実〕

○障害者のキャリア教育

→ 特例子会社等との連携およびキャリア教育の視点から教育課程を見直す

◆情報戦略

- ホームページ
- 学校だよりの充実
- SNSの活用
 - ・行事等の即時公開
 - ・